

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 263 2019年3月発行

新春クイズの 当選発表

正解は

「**自**・**主**・**自**・**主**」でした。

今年は1月31日に締め切り、最終的には436通の応募がありました(正解436)。応募頂いた皆さんに御礼を申し上げます。

2月12日に厳正な抽選を行った結果、次の方々の当選を確認しましたので発表します。

おめでとうございます!

1等 1万円のびゅう商品券 (3名)

- ① 伊藤 至大(盛岡) ② 斎藤弘五郎(仙台)
- ③ 高橋 重次(東京)

2等 5千円のびゅう商品券 (5名)

- ① 中野 孝志(盛岡) ② 鈴木 四男(仙台)
- ③ 望月 朝美(横浜) ④ 新井 佳男(高崎)
- ⑤ 井田 昭雄(新潟)

3等 3千円のびゅう商品券 (10名)

- ① 藤澤 宏行(盛岡) ② 熊谷 芳夫(秋田)
- ③ 原田 正彰(仙台) ④ 伊藤 義明(東京)
- ⑤ 恒松 観朝(横浜) ⑥ 津久井知司(高崎)
- ⑦ 小林 智(新潟) ⑧ 米窪 康純(長野)
- ⑨ 末木 茂(八王子) ⑩ 秋田 慶治(大宮)

特別賞 1千円の図書カード (15名)

- ① 千葉 貞二(盛岡) ② 古屋敷七郎(盛岡)
- ③ 対馬 邦昭(秋田) ④ 大友 長城(仙台)
- ⑤ 小野寺勝朗(仙台) ⑥ 鈴木 康之(水戸)
- ⑦ 木村 好孝(千葉) ⑧ 金子 富次(東京)
- ⑨ 藤咲千枝美(東京) ⑩ 亀井 進(横浜)
- ⑪ 横田 治(高崎) ⑫ 飯野 正(新潟)
- ⑬ 服部 明美(長野) ⑭ 本田 祥章(八王子)
- ⑮ 大高 和男(大宮) (以上 敬称略)

3・11 東日本大震災から 8 年!

被災者の内海さんは、

自治会活動で恩返し

今でも温かい
仲間の気持ちか！

あの悪夢の様な「3・11東日本大震災」から、まもなく8年目を迎えます。この度、当日自宅にいて大震災に遭遇し、自宅を津波で流失するも命からがら逃げ出し、一命を取り止めた盛岡地本一関支部OB会の内海勝行さんから、その後地元の人達の為に奮闘している報告が寄せられましたので、「ここに「3・11」を風化させないためにも全文を掲載します。

東日本大震災の発生から、まもなく8年を迎える。未曾有の大津波は

気仙沼湾を火の海と化し、此の世のものとは思えぬ光景に身を震わせた日の出来事は一生忘れられない・・・。

8年前、全国の仲間からの温かい支援を受けて、夫婦二人で身を寄せていた長男の嫁の実家で、肩身の狭い思いはしなくてすんだ。それは被災直後から、仲間からの組織的な取り組みで、連日支援物資が届けられ、六畳間の部屋は満杯となり、日常生活に事欠く事はなかった。同じ被災した住民が、食料品や日用品を求めて毎日店頭に並んでいたのに、そんな

な苦労もしないで生活が出来たのも、仲間の有難い支援があったればこそと、今でもその時の気持ちは忘れていない。

懇願され役員に

当時私は行政委員と自治会長をしていたので、住民の避難先へ連日12kmの道を歩いて安否確認に奔走したのも昨日の様に覚えている。

大津波の経験から、高台に被災者だけの公営住宅と防災集団移転の組合せの現在地に、家を建て移住してから丸2年が経過した。移住する時「新しい行政区をまとめて欲しい」と、行政側から自治会役員を懇願され引き受けた。新しく結成された自

治会は、地域の人達から期待された。これまでの私達の自治会は、仮設住宅に住んでいた時からコミュニケーションが図られ、自治会活動への理解があった事もプラスになった。

自治会のキャッチフレーズは「絆・ファイト」で、自治会旗を創ってイベントで掲げ、団結を図ってきた。

被災した自治会には県から活動資金が補助された事も随分役に立った。昨年の八月には待望の会館が完成し、その活動は「趣味の会」の掘り起しにも多いに役立った。

自治会が結成された一年後の九月には、この地域に初めて自主防災組織を結成した。そして11月には市の防災訓練にも参加し、参加者との親睦を深めた。

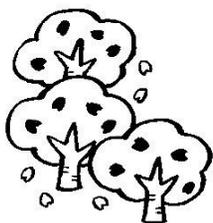
これからも労働者魂で

退職してからすでに十五年、今ではいくつかの団体に参画し、事務局を担う立場になって活動を元気に続けている。これは青年部時代から教えられた労働者魂が、後期高齢者となった今も健在だからだ。

これからも被災した当時に仲間から受けた支援の温かい気持ちを忘れずに、新しい自治会で住民のために奮闘し骨を埋める覚悟だ。そのことが仲間への御恩返しであると思っている。

「生涯労働者」

の精神を貫徹し、これからも頑張っていく所存です。



4月より「マクロ経済スライド」で 年金が実質的に目減り!

「財政検証」結果発表後、年金改革議論が本格化

平成最後の年が明け、春の地方統一選挙と夏の参院選、4月の天皇退位と5月の新天皇即位、そして秋にはラグビーのWカップと消費税の10%への値上げ等、大きな行事が目白押しの中、1月28日150日間の第198回通常国会が開会し、与野党の熱い論戦が始まりました。その様な中で、今、年金で生計を立てている高齢者が注目しているのが「年金改革」の動きです。特に今年は「年金改悪元年」とも言われており、年金支給の減額に向けた動きが活発化しそうです。

安倍政権の思惑は

最近安倍首相は「人生100年時代」を謳い、盛んに「高齢者の雇用」を強調しています。しかしその言葉の裏には、年々膨張し続ける社会保障費の中でも、特に年金受給者の年金支給額を減らす魂胆が明け透けに見て取れます。

今年の年金を巡る動き

① 今年の春には、5年に一度の厚生年金と基礎年金の財政が健全かどうかの「財政検証」が行われます。

厚生年金の受給世帯の標準的な年金額(モデル世帯、65歳時点)が、将来も現役サラリーマンの平均手取り賃金の50%を割り込まない様に法律で定められており、5年前の時には40歳以下の世代も50.6%受給できると報告されました。

しかし今回は、基礎年金の財政は厚生年金より脆弱であり、現行月額6万5千円よりかなり低くなる試算結果が予想されています。

② 今年の4月から、年金支給額を低く抑える目的でつくられた「マクロ経済スライド」の導入が予想されています。

これによって本来は物価上昇分に応じて支給額が改定される所、少子高齢化の動向を反映させた「調整率」によって差し引かれるので、物価上昇分よりも小幅にしか増えず、実質的な目減りになってしまいうのです。

③ また厚労省は、この秋から「年金改革」に向けた議論を活発化させようと目論んでいます。

予想される内容は「厚生年金加入者の拡大」で、加入基準を見直し「パート労働者への適用」をどこまで拡大するかです。これには、厚生年金の保険料を従業員と折半している企業が難色を示していると云われています。

また現行年金支給開始年齢は65歳からとっていますが、これを67歳へ引き上げ、希望者には75歳からとする案も厚労省では検討しています。

更に高齢者が年金受給開始と同時に退職する人が多いのは、「働く」と年金が減額される」という現行制度があります。

60歳前半の人で「賃金と厚生年金が月28万を越える場合」、更に

《4月地方統一選挙》

JR東労組推薦候補者の 全員当選を目指してがんばろう!

自分でできる節税対策の主な項目	
個人年金保険	年間8万円の貯蓄で4万円控除
医療費控除	1世帯で年間10万円を超えた部分
セルフメディケーション控除	厚労省指定の成分を含む市販薬を1世帯で年間1万2千円購入で適用
確定拠出年金	掛け金が控除対象(年収500万の場合、年間27万6千円)
ふるさと納税	2千円を超える寄付を行った場合、所得税と住民税から一定額が控除
子供の国民年金保険	親が代わりに払った場合、控除。年末調整か確定申告が必要

知っていますか、 細やかな節税対策

いづれにしても高齢者にとっては、益々住みづらい世の中になって行く事には間違いありません。

本部OB会は、これからもJR総連OB連絡会や日本退職者連合を通じて、各政党や連合と共に「社会保障制度の拡充」のために全力を上げて行きます。

65歳以上で「賃金と厚生年金が月48万を越える場合」は、それぞれの厚生年金が減額されます。そこでその制度を廃止して、更に働き続ける高齢者を増やそうとする動きです。

日本退職者連合が 連日会議と集会を開催

2月13日13時から連合本部会議室で「2019年全国事務局長会議」が開催され、JR総連OB連絡会からは植松事務局長が参加しました。会議では「政策・制度要求」や「組織強化・拡大」等について議論が行われました。

18時からは「ホテルルポール麹町」で、第25回参議院選挙の退職者連合推薦候補者の必勝に向けた総決起集会が開催されました。

翌14日は、午前10時から第198回通常国会に向けて、「政策・制度要求実現2・14院内集会」が300名の参加で開催されました。集会には野党の国会議員も参加しました。JR総連OB連絡会からは、JR東労組OB会(5名)と貨物労組OB会(2名)の7名が参加しました。

JR東労組本部OB会 第23回定期総会

* 日時 2019年4月19日(金) 12時~

* 場所 JR東労組本部大会議室

地域重視の活動方針を

みんなの力でつくり出そう!